

2008.6.8

# 上場企業の自己資本利益率

## 6期ぶりに低下

前米9.3%  
期欧と格差

上場企業の資本効率の改善が停滞し始めた。自己資本をどれだけ効率よく使い利益を上げたかを示す自己資本利益率(ROE)は、二〇〇八年三

月期に九・三%と六期ぶりにやや低下した。資源

高など収益環境の悪化で純利益が伸び悩む一方で、自己資本が膨らんだままの企業が多い。欧米主要企業は一〇%を確保しており、海外投資家が日本株投資を見送る一因と指摘もある。

日本経済新聞社が三月

期決算企業千五百九十五社(金融、新興市場除く)を対象に集計。ROEは純利益を、当期とその前期の自己資本の平均値で割って算出する。前期末の純利益は十八兆六千億円で、株安やリストラに伴う特別損失も重しけなり三千三百億円の伸びにとどまった。一方で自己資本は二百一兆円と二年前より一兆五千億円増え高水準が続いた。

野村証券によると米國

の主要企業(S&P五百種ベース)の〇七年実績は二・五%。英國(F TSE百種)は一八・一%で、香港(ハンセン指数)も一七・二%に落ちた。「ROE向上には収益性向上と同時に、配当や自社株買いで株主還元を進め自己資本をスリム化することが必要」(ゴールドマン・サックス証券チーフ日本株ストラテジストのキャシー・松井氏)との指摘が聞かれる。